

専 門 教 養
令和元年 7 月
60 分

受 験 教 科 等
特別支援学校 家 庭

注 意

- 1 指示があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 2 全て係員の指示に従って、静粛に受験してください。
- 3 机上には、受験票、筆記用具、時計以外のものを出してはいけません。
- 4 問題の音読等、他の受験者の迷惑になるような行為、携帯電話の使用及び不正行為をしてはいけません。
- 5 解答時間は60分です。途中退出はできません。
- 6 問題冊子のページ数は、21ページです。はじめにページ数を確かめてください。
- 7 解答用紙に**必要事項の記入やマークがない場合や誤っている場合には、解答は全て無効**となります。解答用紙の【1】の欄には、**受験番号を記入し、受験番号に対応する数字をマーク**してください。【2】の欄には、**氏名を記入**してください。ただし、【3】の選択問題を表す欄のマークは不要です。
- 8 この問題は、**教科等に関する問題 1 ~ 7**、**特別支援教育の専門に関する問題 I ~ IV**の各問題から構成されています。
- 9 問題冊子の余白等は、適宜使用しても構いませんが、どのページも切り離してはいけません。
- 10 問題文中の「学習指導要領」は、特に指示がある場合を除いて、平成29年又は平成30年告示の「学習指導要領」を表しています。
- 11 問題の内容についての質問には一切応じません。

==== 解答上の注意 =====

- 1 解答は、問題文や解答用紙の注意事項に従って、解答欄にマークしてください。問題には、選択肢から選び解答する場合や、数字又は符号（-）を入れて問題文を完成させて解答する場合などがあり、解答方法が複数ある場合とどれか一つのみの場合とがあります。
- 2 「解答番号は 1。」と表示のある問に対して、3と解答する場合には、次の（例1）のように解答番号 1 の解答欄の③にマークしてください。

（例1）

解答番号	解答欄
1	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖

解答上の注意の続きを、問題冊子の裏表紙に記載してあります。問題冊子を裏返して必ず読んでください。

3 問題文中の 、 などの には、数字又は符号（-）が入ります。次の(1)~(4)の方法でマークしてください。

(1) 、、、……の一つ一つは、それぞれ1~9、0の数字又は符号（-）のいずれか一つに対応します。それらを 、、、……で示された解答欄にマークしてください。

例えば、 に -84 と解答する場合には、次の(例2)のようにマークします。

(例2)

解答番号	解答欄
<input type="text" value="2"/>	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ●
<input type="text" value="3"/>	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ● ⑨ ⑩ ⊖
<input type="text" value="4"/>	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖

なお、同一の問題文中に 、 などが2度以上現れる場合、原則として、2度目以降は、、 のように細字で表記します。

(2) 分数形で解答する場合は、符号は分子に付け、分母に付けてはいけません。また、分数は既約分数で答えてください。

例えば、 $\frac{\text{5} \text{6}}{\text{7}}$ に $-\frac{4}{5}$ と解答する場合には、 $\frac{-4}{5}$ として、次の(例3)のように

マークします。

(例3)

解答番号	解答欄
<input type="text" value="5"/>	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ●
<input type="text" value="6"/>	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖
<input type="text" value="7"/>	① ② ③ ④ ● ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖

(3) 小数の形で解答する場合は、特に指示されていなければ、指定された桁数の一つ下の桁を四捨五入して答えてください。また、必要に応じて、指定された桁まで⑩にマークしてください。

例えば、 に 2.6 と解答する場合には、2.60 として答えてください。

(4) 根号を含む形で解答する場合は、根号の中に現れる自然数が最小となる形で答えてください。

4 「ただし、選んだ数字の小さい順にマークすること。解答番号は 、、。」と表示のある問に対して、2と5と8と解答する場合には、次の(例4)のように「②、⑤、⑧」の順にマークします。

このとき、「②、⑤、⑧」以外の「⑤、②、⑧」や「⑧、②、⑤」などの順にマークした場合には、不正解となります。

(例4)

解答番号	解答欄
<input type="text" value="11"/>	① ● ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖
<input type="text" value="12"/>	① ② ③ ④ ● ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖
<input type="text" value="13"/>	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ● ⑨ ⑩ ⊖

教科等に関する問題

1 家族・家庭生活に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 次の記述は、「高等学校キャリア教育の手引き」(文部科学省 平成23年11月)に示された「キャリア教育で育成すべき力」のうちの「基礎的・汎用的能力」の一つに関するものである。その能力として適切なものは、A群の1～4のうちのどれか。また、その具体的な要素として示されているものとして適切なものは、B群の1～4のうちのどれか。解答番号はA群が 、B群が 。

自らが行うべきことに意欲的に取り組む上で必要なものであり、仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力。

【A群】

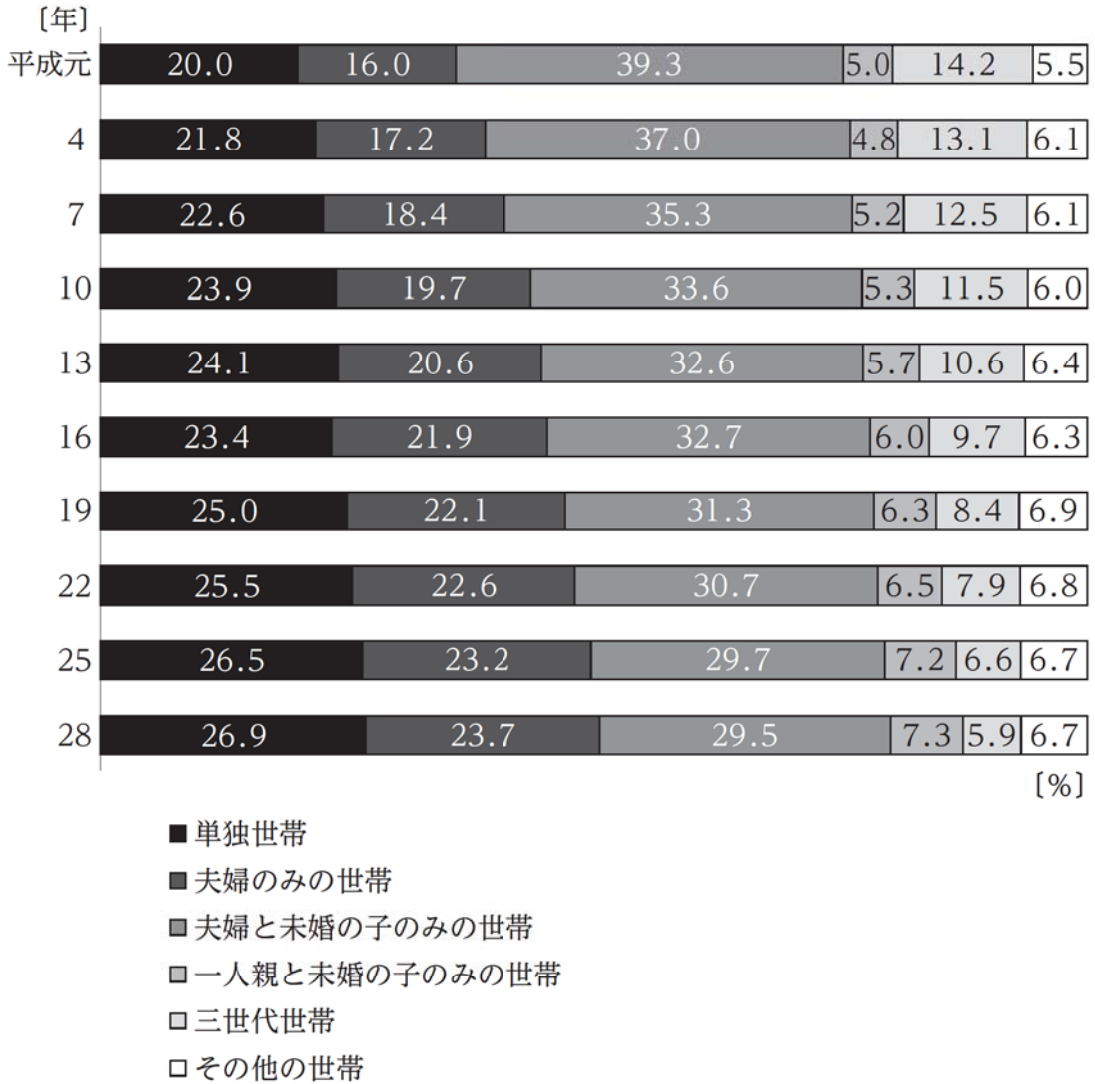
- 1 課題対応能力
- 2 自己理解・自己管理能力
- 3 人間関係形成・社会形成能力
- 4 キャリアプランニング能力

【B群】

- 1 コミュニケーション・スキル、リーダーシップ
- 2 前向きに考える力、主体的行動
- 3 計画立案、評価・改善
- 4 多様性の理解、将来設計

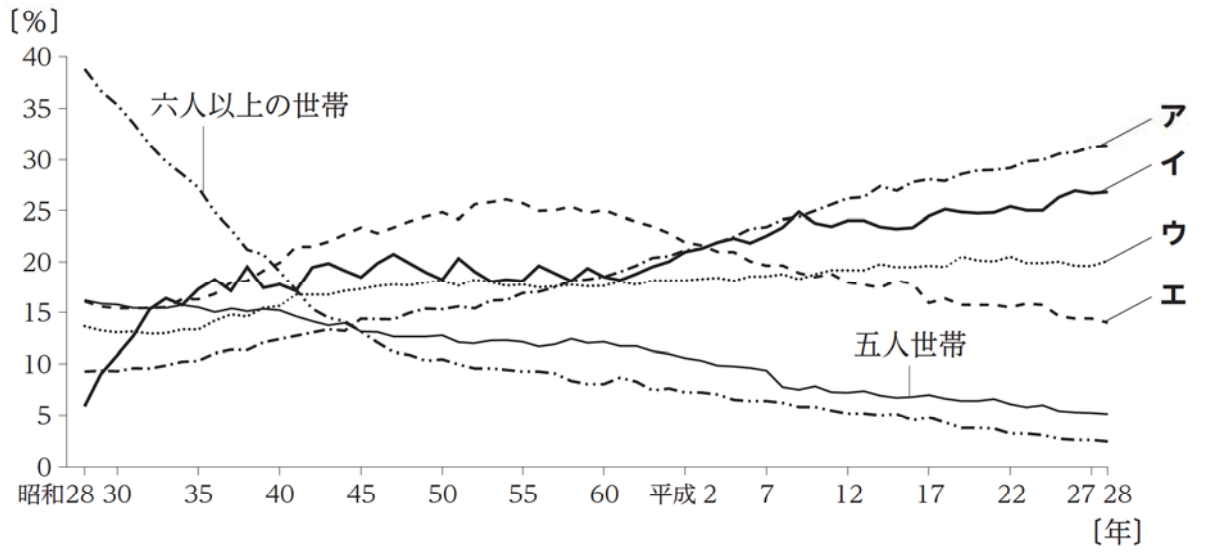
[問 2] 次の図1及び次のページの図2は、「グラフでみる世帯の状況」（厚生労働省 平成30年3月）に示された「世帯構造別にみた世帯数の構成割合の年次推移」及び「世帯人員別にみた世帯数の構成割合の年次推移」である。図2の**ア**～**エ**に当てはまるものの組合せとして適切なものは、次のページの1～4のうちのどれか。解答番号は 。

図1 世帯構造別にみた世帯数の構成割合の年次推移



* 数値は四捨五入しているため、内訳の合計が100%となっていない場合がある。

図2 世帯人員別にみた世帯数の構成割合の年次推移



	一人世帯	二人世帯	三世帯	四人世帯
1	ア	イ	ウ	エ
2	ア	イ	エ	ウ
3	イ	ア	ウ	エ
4	イ	ア	エ	ウ

2 衣生活に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 次の記述ア～エのうち、成人男性の採寸方法に関するものとして適切なものには①を、適切でないものには②をそれぞれマークせよ。解答番号はアが 、イが 、ウが 、エが 。

- ア 胸囲は腕の付け根の下端を通して胸の回りを水平に計測する。
- イ 胴囲は胴の最も細いところを水平に計測する。
- ウ 腰囲は腰の最も太いところを水平に計測する。
- エ ゆきは肩先から肘を通して手首の関節までを計測する。

[問 2] 次の図1、図2は、セミタイトスカートの型紙とそれを用いて毛フランド生地でスカートを製作する際、仮縫いし、試着した姿を示したものである。次のページの(1)、(2)の各問に答えよ。

図1

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

図2

掲載許可が得られていませんので、掲載いたしません。

(1) 図2のように大腿部の辺りにつれじわが出ているときの補正した型紙を示したものとして適切なものは、次の1～4のうちのどれか。解答番号は 。

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| 掲載許可が
得られてい
ませんので、
掲載いたし
ません。 | 掲載許可が
得られてい
ませんので、
掲載いたし
ません。 | 掲載許可が
得られてい
ませんので、
掲載いたし
ません。 | 掲載許可が
得られてい
ませんので、
掲載いたし
ません。 |

————— 修正前の型紙
 ----- 修正後の型紙

(2) 次のア～ウは、型紙を補正した後にスカートを製作したときの、裾の始末を表している。奥まつりで仕上げたときの始末と、その際に使用する手縫い針（メリケン針）との組合せとして最も適切なものは、下の1～9のうちではどれか。解答番号は 。

- | | | |
|---|---|---|
| ア | イ | ウ |
| 掲載許可が
得られてい
ませんので、
掲載いたし
ません。 | 掲載許可が
得られてい
ませんので、
掲載いたし
ません。 | 掲載許可が
得られてい
ませんので、
掲載いたし
ません。 |

	始末	手縫い針（メリケン針）
1	ア	6番
2	ア	8番
3	ア	9番
4	イ	6番
5	イ	8番
6	イ	9番
7	ウ	6番
8	ウ	8番
9	ウ	9番

3 食生活に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 次の栄養素に関する記述ア～エと、栄養素A～Dとの組合せとして適切なものは、下の1～8のうちどれか。解答番号は **10**。

ア 体内では主に細胞内液に存在し、細胞の活性を維持する働きがある。また、心臓や筋肉の機能調節、神経の刺激伝達、浸透圧の維持などに関わっている。

イ 消化液の分泌を促進させる働きのほか、ピルビン酸からアセチルCoAになる反応に関与する補酵素として作用する。不足すると食欲不振、倦怠感などの症状がみられる。

ウ 細胞の結合組織の合成、アミノ酸の代謝のほか、副腎皮質ホルモンを生成するなどの働きがある。不足すると骨形成不全、成長不良などがみられる。

エ エネルギー代謝に関わったり核酸の成分として働いたりするほか、糖質代謝を円滑に進める作用がある。腎臓に疾患がある場合は、摂取制限が必要である。

A ビタミンB₁

B ビタミンC

C カリウム

D リン

- | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|
| 1 | ア-A | イ-C | ウ-B | エ-D |
| 2 | ア-A | イ-C | ウ-D | エ-B |
| 3 | ア-B | イ-C | ウ-D | エ-A |
| 4 | ア-B | イ-D | ウ-A | エ-C |
| 5 | ア-C | イ-A | ウ-B | エ-D |
| 6 | ア-C | イ-D | ウ-A | エ-B |
| 7 | ア-D | イ-A | ウ-B | エ-C |
| 8 | ア-D | イ-B | ウ-C | エ-A |

[問 2] 六人分の精白米を、米の重量に対して1.4倍の水を加えて炊飯したところ、炊き上がりの重量が945gで、炊飯前の米の重量に対して2.1倍であった。このときの、一人分当たりの加水量 [g] を求めよ。解答番号は **11 12 13**。

4 住生活に関する次の問に答えよ。

[問] 次の記述ア～ウ、下の図A～Cは、住まいの構造・構法のうち、在来軸組構法、ラーメン構造、壁式構造のいずれかに関するものである。ア～ウと、A～Cとの組合せとして適切なものは、下の1～9のうちのどれか。解答番号は在来軸組構法が 、ラーメン構造が 、壁式構造が 。

ア コンクリート基礎の上に土台を置き、その上に柱を立て、梁や桁を渡し、その上に屋根をかける。柱、梁等の接合部分に継手、仕口等の伝統的手法が用いられることが多い。

イ 柱、梁、床板を剛接合で固定し、強度を保つ。耐震壁は平面的にも立面的にも均整のとれた配置にすれば、地震力に対して効果的な抵抗が可能である。

ウ 建物の高さ、階数などに制限があるため、集合住宅に用いる場合は中低層建物になる。リフォームを行う場合、構造体として機能している壁は外すことができない。

A

掲載許可が
得られてい
ませんので、
掲載いたし
ません。

B

掲載許可が
得られてい
ませんので、
掲載いたし
ません。

C

掲載許可が
得られてい
ませんので、
掲載いたし
ません。

- 1 アーA
- 2 アーB
- 3 アーC
- 4 イーA
- 5 イーB
- 6 イーC
- 7 ウーA
- 8 ウーB
- 9 ウーC

5 保育に関する次の問に答えよ。

[問] 次の記述は、『子育て安心プラン』について」（厚生労働省 平成29年6月）の「六つの支援パッケージの主な内容」に関するものである。文中の空欄 **ア** ~ **ウ** に当てはまる語句の組合せとして適切なものは、下の1~6のうちのどれか。解答番号は **17** 。

- ・ 幼稚園における **ア** の受入れや預かり保育の推進
- ・ 保育提供区域ごとの **イ** の取組状況の公表
- ・ **ウ** による保護者のための出張相談などの支援拡大

- | | | | |
|---|--------------|---------------------|----------------------|
| 1 | ア 0歳児 | イ 保育士の業務負担軽減 | ウ 「地域コンソーシアム」 |
| 2 | ア 0歳児 | イ 男性による育児の促進 | ウ 「保育コンシェルジュ」 |
| 3 | ア 1歳児 | イ 待機児童解消 | ウ 「地域コンソーシアム」 |
| 4 | ア 1歳児 | イ 保育士の業務負担軽減 | ウ 「保育コンシェルジュ」 |
| 5 | ア 2歳児 | イ 男性による育児の促進 | ウ 「地域コンソーシアム」 |
| 6 | ア 2歳児 | イ 待機児童解消 | ウ 「保育コンシェルジュ」 |

6 高齢者に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 次の表は、「要介護度別にみた介護が必要となった主な原因の構成割合」（厚生労働省平成28年）の一部を示したものである。表中の**ア～エ**に当てはまるものの組合せとして適切なものは、下の**1～4**のうちのどれか。解答番号は **18**。

	脳血管疾患	ア	イ	ウ	エ	心疾患	[%]
総数	16.6	18.0	13.3	12.1	10.2	4.6	
要支援 1	11.5	5.6	18.4	11.4	20.0	5.8	
要支援 2	14.6	3.8	14.2	18.4	14.7	7.4	
要介護 1	11.9	24.8	13.6	11.5	10.7	4.3	
要介護 2	17.9	22.8	13.3	10.9	7.0	4.3	
要介護 3	19.8	30.3	12.8	8.9	6.4	3.3	
要介護 4	23.1	25.4	9.1	12.0	4.0	4.2	
要介護 5	30.8	20.4	6.7	10.2	1.1	0.9	

* 「総数」には、要介護度不詳を含む。* 熊本県を除いたものである。
（厚生労働省「平成28年 国民生活基礎調査の概況」（平成29年6月）から作成）

- | | | | | |
|---|---------|-----------|---------|-----------|
| 1 | ア 骨折・転倒 | イ 関節疾患 | ウ 認知症 | エ 高齢による衰弱 |
| 2 | ア 認知症 | イ 高齢による衰弱 | ウ 骨折・転倒 | エ 関節疾患 |
| 3 | ア 認知症 | イ 骨折・転倒 | ウ 関節疾患 | エ 高齢による衰弱 |
| 4 | ア 骨折・転倒 | イ 高齢による衰弱 | ウ 関節疾患 | エ 認知症 |

[問 2] 高齢者の健康に関する記述のうち、「ロコモティブシンドローム」の記述として適切なものは、次の**1～4**のうちのどれか。解答番号は **19**。

- 1 精神的機能、身体的機能を使わないことによって、機能が低下していくこと。特に、寝たきりになることで、筋肉が萎縮したり、関節が動かなくなったりすることをいう。
- 2 低下した身体的、精神的な機能を回復する訓練のこと。本来の意味では、周りの環境や制度などを含めて良好な状態に戻すことをいう。
- 3 運動や栄養、薬などを用いて生活習慣を改善するなど、老化の進行を遅らせようとすることをいう。
- 4 筋肉、骨、関節、軟骨、椎間板といった運動器の障害により、立ったり歩いたりする機能が低下している状態のことをいう。

7 消費生活に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 次の記述**ア**～**エ**は、消費者契約法に関するものである。平成30年に一部改正され、「消費者契約の申込み又はその承諾の意思表示の取消し」に新たに加えられた条文に関するものの組合せとして適切なものは、下の1～6のうちのどれか。解答番号は 。

- ア** 物品、権利、役務その他の当該消費者契約の目的となるものに関し、将来におけるその価額、将来において当該消費者が受け取るべき金額その他の将来における変動が不確実な事項につき断定的判断を提供すること。
- イ** 当該消費者が、社会生活上の経験が乏しいことから、身体の特徴又は状況に関する重要な事項に対する願望の実現に過大な不安を抱いていることを知りながら、その不安をあり、消費者契約の目的となるものが当該願望の実現に必要な旨を告げること。
- ウ** 当該事業者が、当該消費者契約の締結について勧誘をしている場所から当該消費者が退去する旨の意思を示したにもかかわらず、その場所から当該消費者を退去させないこと。
- エ** 当該消費者が、加齢等により判断力が著しく低下していることから、生計、健康等の事項に関し現在の生活の維持に過大な不安を抱いていることを知りながら、その不安をあり、消費者契約を締結しなければその現在の生活の維持が困難となる旨を告げること。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 ア・エ
- 4 イ・ウ
- 5 イ・エ
- 6 ウ・エ

[問 2] 国税や地方税のうち、間接税に分類されるものの組合せとして適切なものは、次の1～4のうちのどれか。解答番号は 。

- 1 酒税・法人税・事業税
- 2 都道府県民税・所得税・相続税
- 3 地方消費税・入湯税・固定資産税
- 4 消費税・揮発油税・印紙税

特別支援教育の専門に関する問題

I 特別支援教育に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 次の記述ア～エのうち、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（平成28年4月1日施行）に照らして正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の1～6のうちではどれか。解答番号は 。

ア この法律は、障害者基本法の基本的な理念にのっとり、障害を理由とする差別の解消を推進し、全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に資することを目的としている。

イ 障害者とは、身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む。）その他の心身の機能の障害がある者であって、その障害に起因する困難により、継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にある者であり、社会的障壁を含まないものをいう。

ウ 行政機関等及び事業者は、社会的障壁の除去の実施についての必要かつ合理的な配慮を的確に行うため、施設の構造の改善及び設備の整備に努めるよう規定されているが、職員に対する研修は規定されていない。

エ 行政機関等及び事業者は、その事務又は事業を行うに当たり、障害を理由として障害者でない者と不当な差別的取扱いをすることにより、障害者の権利利益を侵害してはならないとされている。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 ア・エ
- 4 イ・ウ
- 5 イ・エ
- 6 ウ・エ

[問 2] 学校教育における合理的配慮に関する記述ア～エのうち、「特別支援教育の在り方に関する特別委員会報告1」（中央教育審議会初等中等教育分科会 平成24年7月13日）に照らして正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の1～6のうちではどれか。解答番号は 。

ア 合理的配慮とは、障害のある子供が、他の子供と平等に教育を受ける権利を享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、均衡を失した又は過度の負担を課さないものである。

イ 障害のある子供に対する支援については、法令に基づき又は財政措置により、国、都道府県及び市町村は、教育環境の整備をそれぞれ行う。これらの合理的配慮の基礎となる「基礎的環境整備」を基に、学校の設置者及び学校は、各学校において、障害のある子供に対し、法令に基づいて一律の環境整備を行う。

ウ 合理的配慮は、一人一人の障害による困難を軽減するために提供されるものであるため、学校の設置者及び学校は、合理的配慮の観点を踏まえ、本人と保護者の意向を聞き取る前に、提供可能な合理的配慮を考えて提供することが求められ、その内容を個別の教育支援計画に明記する。

エ 合理的配慮は、その障害のある子供が十分な教育が受けられるために提供できているかという観点から評価することが重要であり、それについても研究していくことが重要である。例えば、個別の教育支援計画、個別の指導計画について、各学校において計画に基づき実行した結果を評価して定期的に見直すなど、PDCAサイクルを確立させていくことが重要である。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 ア・エ
- 4 イ・ウ
- 5 イ・エ
- 6 ウ・エ

[問 3] 特別支援教育に係る教育課程についての記述ア～エのうち、正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の 1～6 のうちではどれか。解答番号は 24。

ア 特別支援学級において特別の教育課程を編成する場合、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領に示す自立活動を取り入れることとする。

イ 特別支援学級においては、特に必要がある場合は、特別の教育課程を編成することができるため、指導する内容は、指導に当たる教員の裁量によって特別に決めて指導することができる。

ウ 知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の中学部の教育課程は、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭及び外国語の各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間、特別活動並びに自立活動によって編成する。

エ 特別支援学校の小学部において、知的障害者である児童を教育する場合、特に必要のあるときは、各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、特別活動及び自立活動の全部又は一部について、合わせて授業を行うことができる。

1 ア・イ

2 ア・ウ

3 ア・エ

4 イ・ウ

5 イ・エ

6 ウ・エ

Ⅱ 学習指導要領に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 特別支援学校高等部学習指導要領（平成21年3月告示）の「総則」の「教育課程の編成」の「職業教育に関して配慮すべき事項」に関する記述ア～エのうち、正しいものを選んで組合せとして適切なものは、下の1～6のうちのどれか。解答番号は 。

ア 職業に関する各教科・科目について、実験・実習に担当する授業時数は105単位時間を標準とする。

イ 生徒の生活年齢を考慮し、職業に関する各教科・科目の履修を容易にするため特別な配慮が必要な場合には、各分野における基礎的又は中核的な科目を重点的に選択する。

ウ キャリア教育を推進するために、地域や学校の実態、生徒の特性、進路等を考慮し、地域及び産業界や労働等の業務を行う関係機関との連携を図る。

エ 普通科においては、地域や学校の実態、生徒の特性、進路等を考慮し、必要に応じて、適切な職業に関する各教科・科目の履修の機会の確保について配慮する。

1 ア・イ

2 ア・ウ

3 ア・エ

4 イ・ウ

5 イ・エ

6 ウ・エ

[問 2] 次の記述ア～エのうち、特別支援学校高等部学習指導要領（平成21年3月告示）の「総則」の「教育課程の編成」の「教育課程の実施等に当たって配慮すべき事項」に示されているものとして適切なものには○を、適切でないものには×をそれぞれマークせよ。解答番号はアが 、イが 、ウが 、エが 。

ア 海外から帰国した生徒などについては、学校生活への適応を図るとともに、日本での生活に慣れるように体験学習を行うなど適切な指導を行うこと。

イ 学校の教育活動全体を通じて、個に応じた指導を充実するため、個別の指導計画に基づき指導方法や指導体制の工夫改善に努めること。

ウ 現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力を育成することができるよう、学校の教育活動全体を通じてガイダンス機能の充実を図ること。

エ 各教科・科目等の指導に当たっては、生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるようにすること。

Ⅲ 次の事例を読み、下の各問に答えよ。

生徒Aは、知的障害特別支援学校中学部に在籍する自閉症のある生徒である。

生徒Aの様子

- ・ 聴覚から情報を捉えることは苦手であるものの、視覚からの情報を理解することが得意である。
- ・ 他者の様子に関心があり、進んでコミュニケーションを取ろうとする。
- ・ 気持ちが落ち着かなくなったときに、自らの行動を抑制することが難しく、他者に対して荒々しい行動に及んでしまうことがある。
- ・ 困ったことに直面したときに、他者に援助を求める方法が身に付いていない。
- ・ 険しい表情や口調で話してしまうことが多く、相手に動揺を与えてしまうことがある。
- ・ 感情などを言葉にして話すことが難しく、相手に意思が伝わらないことが多い。
- ・ 一方的に話してしまうことが多く、相手の話を聞くのが苦手なため、会話が成立しにくい。

(「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)(平成30年3月)」から作成)

[問 1] 下線部に関連して、自閉症のある児童・生徒の障害の特性を踏まえた指導に関する記述として**適切でないもの**は、次の1～4のうちのどれか。解答番号は 。

- 1 他者との関わりをもとうとするが、その方法が十分に身に付いていない児童・生徒に対して、はじめから多くの教師と様々なやりとりを経験するようにする。
- 2 言葉でのコミュニケーションが困難な児童・生徒に対して、話し言葉を補うためにタブレット型端末等を活用して要求を伝えられるようにする。
- 3 音に過敏に反応する児童・生徒に対して、苦手な音がして落ち着かなくなりそうなときにイヤーマフを自分で着用して音量を調節できるようにする。
- 4 身体を前後に動かして自己刺激を過剰に得ようとしている児童・生徒に対して、ブランコ遊びなどの他の適切な活動に置き換えて、同じような感覚を得られるようにする。

[問 2] 次の記述**ア**～**エ**のうち、自閉症のある児童・生徒の障害の特性や「生徒Aの様子」を踏まえた生徒Aへの指導として正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の1～6のうちではどれか。解答番号は 。

ア 他者に対して荒々しい行動をしてしまったときに、落ち着くことのできる小部屋を用意し、慣れた別の活動に取り組み、気持ちを落ち着かせるようにする。

イ 相手の立場に合わせた言葉遣いや場に応じた声の大きさなどを、実際の生活場面とは切り離し、プリントを使って指導を行う。

ウ 絵カードを使って表情から相手の意図を推測する学習を行い、周囲の状況や他者の感情に配慮した伝え方ができるようにする。

エ 「もうちょっと優しい言い方なら大丈夫だよ」と、意味内容に幅のある表現を用いて状況に応じた話し方を口頭で伝える。

1 ア・イ

2 ア・ウ

3 ア・エ

4 イ・ウ

5 イ・エ

6 ウ・エ

[問 3] 「生徒Aの様子」を踏まえ、個別指導計画の自立活動の目標を「一方的に話すことを調整しながら、伝えたいことを整理して話す」と設定した。この目標を達成するための具体的な指導内容として、次の記述ア～エのうち、正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の1～6のうちではどれか。解答番号は 。

ア 相手に伝えなければならない事柄を、いつ、どこで、どうしたいかなどの項目を示した資料を見ながら順番に話す機会を設定する。

イ 予定されているスケジュールや予想される事態や状況を伝えたり、事前に体験できる機会を設定したりすることで見通しをもてるようにする。

ウ 日常の会話の様子を動画で撮影し、省みるようにすることで、相手の話を聞きながら話したり、穏やかな口調や表情で相手に接したりするよう意識させる。

エ 話し言葉ではなく、メモ帳やタブレット型端末等を活用して、文字のみで自分の話したいことを相手に伝えるようにする。

1 ア・イ

2 ア・ウ

3 ア・エ

4 イ・ウ

5 イ・エ

6 ウ・エ

IV 障害に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 次の記述ア～エは、視覚障害者である児童・生徒の視覚障害の状態に関するものである。正しいものを選んだ組合せとして適切なものは、下の1～6のうちのどれか。解答番号は 。

- ア 視覚障害とは、視機能の永続的な低下により、学習や生活に支障がある状態をいう。片眼だけ視機能の低下がみられる場合も、遠近感覚がないなどの不自由があるため、視覚障害である。
- イ 視力測定はランドルト環を視標とした万国式試視力表を用いる。0.1の視標が5 mの距離から正解できない場合は、それよりも近い距離で測定する。例えば、1 mの距離で0.1の視標が正解できた場合の視力は、0.02である。
- ウ 最小可読視標とは、遠見視力表を用い、一番見やすい距離まで目を近づけてどこまで視標を読み取ることができるかで表す。例えば、「最小可読視標：0.3/5 cm」は、5 cmまで近づければ、0.3の視標が読み取れることである。
- エ 0.01より低い視力は数値で表せないが、明暗も分からない状態を「光覚なし」、明るい暗いかが分かる状態を「光覚（弁）」、眼前で動かした手の動きが分かる状態を「手動（弁）」、眼前の指の数が分かる状態を「指数（弁）」という。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 ア・エ
- 4 イ・ウ
- 5 イ・エ
- 6 ウ・エ

[問 2] 聴覚障害者である児童・生徒に対する指導上の配慮事項に関する記述ア～エのうち、特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）（平成30年3月）に照らして正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の1～6のうちではどれか。解答番号は 。

ア 言葉の意味を理解したり、それによつて的確な言語概念を形成したり、その指導の過程において言語による思考力を高めたりするためには、具体的経験をいかに言葉で表現し理解できるようにするかが極めて大切なことである。

イ 読書の指導に当たっては、児童・生徒がどのような読み方をしているか、果たして読んでいる内容が理解されているかなどの観点から質問などをすることは、児童・生徒の意欲をそぐことになるため、避けなければならない。

ウ 各教科の指導においては、話し合い活動を中心に授業が展開され、そのことを通して、学習内容の理解が図られることから、意思の相互伝達が円滑かつ的確に行われ、それが全体として一層活発化されることが特に望まれる。

エ 児童・生徒が「分かる」ことに支えられて、主体的に学習が進められるよう発展的・応用的な事項に重点を置いたり、興味・関心のある事項を優先的に取り上げたりするなど、工夫して指導するよう努めることが大切である。

1 ア・イ

2 ア・ウ

3 ア・エ

4 イ・ウ

5 イ・エ

6 ウ・エ

[問 3] 肢体不自由特別支援学校における自立活動の指導に関する記述として最も適切なものは、次の1～5のうちではどれか。解答番号は 。

- 1 自立活動の指導を行うためには、特別支援学校自立活動教諭の教員免許状を所有していることが必要である。
- 2 学級担任の教員は、自立活動の指導は自立活動の担当者に全てを任せて、教科等の指導に専念すればよい。
- 3 自立活動の指導は、自立活動の時間を設けてその時間だけ行えばよく、教科等の指導では自立活動の指導を行う必要はない。
- 4 自立活動の指導は、指導目標を数値化してその達成状況に応じて観点別評価を行い、数値による評定を行う。
- 5 障害の状態により、必要に応じて専門の医師やその他の専門家の指導・助言を求めて適切な指導を行う。

[問 4] 次の記述ア～エのうち、知的障害者である児童・生徒の学習上の特性を踏まえた指導に関するものとして適切なものには○を、適切でないものには⊖をそれぞれマークせよ。解答番号はアが 、イが 、ウが 、エが 。

- ア 自発的な活動を大切にし、主体的な活動を促すようにしながら、課題を解決しようとする思考力、判断力、表現力等を育むよう指導する。
- イ 一人一人の児童・生徒の知的障害の状態や経験、興味・関心などを踏まえるとともに、可能な限り実際の場面に即した状況で指導する。
- ウ 将来の社会参加と自立のため、補助具等の学習環境は、発達の段階よりも生活年齢に即して設定し、自力で取り組む力につながるよう指導する。
- エ 学校で学習した内容が、家庭生活を含む日常生活の様々な場面で、学習した内容の深化や、生活の向上につながるよう指導する。

[問 5] 病弱者である児童・生徒に対する指導に関する記述として最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は 。

- 1 糖尿病の児童・生徒は、医療機関が主体となり、徹底した健康管理を行うため、学校では、児童・生徒が病状を気にしないように全ての活動に参加させる必要がある。
- 2 白血病の児童・生徒は、治療計画によっては、入院と退院を繰り返すことがあるので、退院時にはすぐに学校に登校し、指導が再開できるようにする必要がある。
- 3 心身症の児童・生徒は、心理的に緊張しやすく、不安になりやすい傾向があるが、病気の原因を把握しつつ、様々な集団に積極的に参加させる必要がある。
- 4 心臓疾患の児童・生徒は、運動制限の範囲を超えて身体を動かして、病状が悪化することがあるので、病状や体調に応じて生活を自己管理できるようにする必要がある。

問題番号			解答番号	正答1	正答2	正答3	配点	備考	
大問番号	小問番号								
1	1	A	1	1			4	完全解答	
		B	2	3				完全解答	
	2		3	3			4		
2	1		4	1			3		
			5	-			3		
			6	1			3		
			7	-			3		
	2	1		8	1			3	
			2	9	8			3	
				10	5			3	
3	2		11	1			3	完全解答	
			12	0				完全解答	
		13	5				完全解答		
	4		14	1			4		
4			15	5			4		
			16	9			4		
	5	1	17	6			3		
6	1		18	2			4		
	2		19	4			3		
7	1		20	5			3		
	2		21	4			3		
I	1		22	3			3		
	2		23	3			3		
	3		24	3			3		
II	1		25	6			3		
	2	ア	26	-			1		
		イ	27	1			1		
		ウ	28	1			1		
		エ	29	1			1		
III	1		30	1			3		
	2		31	2			3		
	3		32	2			3		
IV	1		33	5			3		
	2		34	2			3		
	3		35	5			3		
	4	ア	36	1			1		
		イ	37	1			1		
		ウ	38	-			1		
		エ	39	1			1		
	5		40	4			2		